

## 「地理歴史（日本史）」の出題の意図

問題はいずれも、①日本史に関する基礎的な歴史的事象を、個別に記憶するのみならず、覚えた事実を互いに関連づけ、総合的に運用する分析的思考を経た知識として習得しているか、②設問に即して、受験までに習得してきた知識と、設問において与えられた情報とを関連づけて分析的に考察できるか、③考察の結果を、設問への解答として、論理的な文章によって表現できるか、を問うています。歴史的な諸事象が、なぜ、どのように起こったのか、相互の間にもどのような影響や関係があったのか。それを自ら考えつつ学んできた理解の深さと、自らの理解を論理的に表現する力を測ろうとしています。

第1問は、古代における国家的造営工事を取り上げ、国家体制の変化に関する理解を問う出題です。造営を行うための労働力や財源がどのように調達されたのか、時期による違いに目を向けることで、地方支配・税制・財政といった国家の仕組みや、その変化との関連に気づいてもらうことを意図しています。

第2問は、中世の武士の家における家督継承のあり方の変化と、応仁・文明の乱の発生・拡大の因果関係を問うものです。室町時代になると、それまで父親の意志によっていた家督の継承は将軍の判断や一族・家臣の合意に比重が置かれるようになり、そのことが家中の分裂を誘発して乱の背景となったという流れを論理的に説明できるかを意図しています。

第3問は、19世紀半ばの江戸をめぐる幕府政策の背景と意図について問うものです。江戸で展開した文化産業と人口構造の関係や、それが潜在的に危険性をはらむとみる江戸幕府の懸念を問題文から読み取り、過去に発生した深刻な事態への反省が後の政策に反映された点に気づいてもらうことを意図しています。

第4問は、戦後の政治の枠組みがどのように成立したかを問うものです。憲法条文、衆議院総選挙結果の図、内閣の変遷に関する文章から、政党政治の変容と対外政策の基本的な方向性とを読み取り、論理的に記述することが求められます。戦後の歴史は、戦前からの蓄積の上に立つと同時に、現代と直接つながる問題を様々に含みますので、現代社会を見る目を養いつつ学習することが期待されます。